講義年月日	2003年5月14日（水）
講演者	新元　公寛氏（紀伊國屋書店OCLCセンター長）
テーマ	米国におけるデジタル・ライブラリーの動向：共同レファレンスサービスと電子ブックサービス
講義内容	■**<u>OCLC</u>**によるサービスの紹介 **1. QuestionPoint（共同レファレンスサービス）**←**<u>CDRS</u>**から発展 図書館間・図書館員相互協力のもとに行う、デジタルレファレンスサービス。 ・2002年6月リリース、LC（米国議会図書館）とOCLCが開発。 ・北米を中心に西欧、アジアなどの図書館（300館以上、大学・公共・国立図書館など館種は多様）で利用。 ・汎用のWebブラウザだけで使用可能。 ・週7日間24時間のサービス体制。 ・世界中の該当分野の専門家によってサービス提供。 ・質問と回答は、データベース（グローバル・ナレッジベース）に蓄積。 ・人的資源、情報資源を共有化できるというメリット。 **2. netLibrary eBook（<u>電子ブック</u>サービス）** インターネットを利用して本のコンテンツを提供する電子ブックサービス。 ・タイトル数：約45,000（参考図書や学術書等、主に大学図書館向けのコレクション）。 ・出版年：[2000～2003年] 25%、[1995～1999年] 45%、[1995年以前] 30%。 ・出版社：約310社参加。 ・インターネットの環境のみ必要（コンテンツはnetLibraryのサーバーで管理）。 ・週7日間24時間利用可能。 ・辞書機能、全文検索機能。 ・著作権の範囲内で印刷可能。 ・保管、破損、紛失、盗難、延滞の問題を考える必要がないというメリット。 （講義に引き続き、デモンストレーション）
用語	・**OCLC**（Online Computer Library Center, Inc.）：本部はアメリカ合衆国オハイオ州ダブリン。1967年設立。非営利・会員制機関で、世界最大の書誌ユーティリティを提供。 ・**CDRS**（Collaborative Digital Reference Service）：1999年秋より、LCと世界各国の図書館等が共同して試行を始めた。世界中から24時間体制で利用できるオンラインレファレンスサービスの先駆け。 ・**電子ブック**：従来のものは、紙媒体であった著作物を電子データ化し、専用端末機やパソコンで読む。
感想	インターネットに代表される情報技術の発達により、従来の図書館サービスを革新的な手法で展開することが可能となっている。新しいサービスの中から、自館にふさわしいものを適切に選択しなければならない。また今後は、そのようなローカルな観点のみならず、「netLibrary」を利用するために、国内70以上の大学がコンソーシアムを結成した韓国のように、グローバルな観点からの戦略が不可欠である。
配付物	「米国におけるデジタル・ライブラリーの動向（事例報告）」 「QuestionPointのご紹介」 「netLibrary eBookについて」 「netLibrary eBook FAQ」 「eBookデモ日本語版（CD-ROM）」 「ワークショップ（2002年11月7日開催）「協同レファレンスシステム～現状と課題～」記録」
備考	OCLC <http://oclc.org/> QuestionPoint <http://www.questionpoint.org/> netLibrary <http://netlibrary.com/> 紀伊國屋書店（OCLC関連） <http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/aboutoclc.htm> Kresh, Diane N.；高木和子（訳）「人間的触れ合いとハイテク―レファレンスサービスの将来モデルとしてのQuestionPoint」『情報管理』、Vol.45, No.8、2002.11、p.553-564 浅見文絵「CDRSから発展型デジタルレファレンスサービスへ―QuestionPointの開始」『カレントアウェアネス』、No.274、2002.12、p.2-3 斎藤泰則「デジタルレファレンスサービスの特性と展開」『カレントアウェアネス』、No.275、2003.3、p.10-13